風姿花伝　その四

神儀ということについて
申楽の始り　その五

一、現在、南都興福寺の維摩會（ゆいまえ）において、講堂で仏へのお務めである法味を行う際、食堂で法会の余興として舞延年が行われる。これは誤った考えや災いである外道を和（やわ）らげ、魔縁を静めるためである。その時、食堂の前で、お経を授けていただくが、それはかの祇園精舎の古き良き例に倣ったものである。大和國春日の興福寺では、二月二日、と五日に宮寺において、四つの座の申楽を奉納する神事が行われるが、これはすなわち、一年の御神事初めの行いであり、天下太平を願っての、御祈祷（ごきとう）にほかならない。

なお、四座として

一、大和國春日御神事に相随（あいしたが）う申楽の四座
外山（とび）、結崎（ゆうざき）、坂戸（さかと）、園満井（えんまんい）

一、江州日吉御神事に相随う申楽の三座
山階（やましな）、下坂（しもさか）、比叡（ひえ）

一、伊勢の主司（しゅし）　二座に、今主司　一座

一、法勝寺御修正参勤申楽三座
新座、本座、法成寺
　この三座は
同じく、賀茂、住吉の御神事にも相随（あいしたが）う。

文中の色文字は世阿弥が用いた用語をそのまま用いています